

活動目標 すこやかに育て いわてっ子

PTAいわて

新たな歴史の創造



盛岡市立城西中学校 PTA

No.173
令和4年12月1日発行

本校は、昨年度創立60周年を迎え、これまでの歴史や地域の方々の温かい思いに触れることができました。今年度は61年目の新たなスタートです。校内陸上記録会を「蒼天祭」と改め、青空の下、第1回蒼天祭を開催することができました。また、コロナ禍で制限されていた城西太鼓や地域での吹奏楽部の演奏も徐々に活動できるようになりました。先輩方から受け継いだ文化を誇りとして継承し、新たな歴史を創っていききたいと思います。
(事務局 奥 智志)

主な内容

- ・山形大会を振り返って…………… 2
- ・第27回家庭教育セミナーの報告 …… 3
- ・岩手県PTAリーダー研修会を開催 …… 4
- ・運動部活動の地域移行について…………… 5
- ・三行詩コンクールの審査結果…………… 8
- ・提言「子どもの権利といじめに関する出張授業」…………… 10
- ・特色あるPTA（北から南から）…………… 11
- ・全国・東北の受賞者の紹介…………… 12



岩手県PTA連合会のホームページはコチラ

発行
一般社団法人岩手県PTA連合会
盛岡市みたけ三丁目38-20
☎641-6444
E-Mail : pta@iwate-pta.or.jp
URL : http://www.iwate-pta.or.jp

印刷
山口北州印刷(株)
盛岡市青山四丁目10-5
☎641-0585

3年ぶりに現地参集で全国大会を開催

—日本PTA全国研究大会山形大会—

期日：令和4年8月26日(金)～27日(土)

場所：山形県内10市町

スローガン

人とひとのつながりを
体感しよう！

～あがらっしやい精神の

山形から～



記念講演の講師の飯森範親氏

つながりを体感しました

県P連会長

岩館 智子

はじめに、岩手県からも多くの方が山形に足を運んで下さいましたことに、心より感謝申し上げます。

全体会の記念講演で飯森氏が「指揮者はオーケストラと来場者をつなぎ、この一瞬でしか味わえない空間を一本のタクトで表現することである」とお話しされたとおり、記念演奏会では会場がひとつとなり、まさに大会主題「人とひとのつながりを体感しよう！」そのものでした。このつながりのように、これから子どもを中心に学校・家

庭・地域をつなぐPTAを大切にしていきたいと、改めて思いました。

第6分科会の報告

県P連副会長

星野賢志郎

初日は米沢市の第6分科会

に参加し情報教育の領域にて、スキー界のレジエントと呼ばれる葛西紀明さんの基調講演となりました。講演では葛西選手がどのような環境下でレジエントと呼ばれるまでになっていったのか、「金メダルを獲る！」という不屈の精神など、本物のメダルを触らせていただきながら聞くことができました。研究発表で

は、デジタル化の現状と課題

について発表され、子供の情報活用能力を育む教育に学校と家庭との連携が重要であると改めて感じました。

翌日は山形市の全体会に参加し、指揮者の飯森範親さんの基調講演を聞いてきました。幼少期に親から教わった「感謝」することを今も守り

続けていることで、人と人のつながりをつくられているということを、講演を通して伝えていただきました。改めて当たり前のことなのに難しいことであると感じました。2日間通して非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

特別第1分科会の報告

県P連副会長

菅原 淳

3年ぶりのリアル開催となった全国研究大会、私は5年ぶり2回目の参加となりました。当分科会は『令和の日本型学校教育』を支援するPTA活動～持続可能な社会の担い

手の育成を目指して』をテーマに開催されました。パネリストは、実践発表では、「環境が大きく変化するときに、何かを変えられる大きなチャンス」と題して滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長の白澤仁様より貴重な経験談を全国に発信していただきました。

岩手県は50年前から教育振興運動に取り組んでいる、コミュニティスクールにおいて先進県です。これからも今までの活動に自信を持ち、時代に合わせた変化をし、学校、家庭、地域がつながり子供たちを育んでいくことを改めて意識する機会となりました。



滝沢第二中のPTA会長、白澤仁さんがパネリストを務められました

東日本大震災

「あの日を知り これまでを想い これからのを考える」

花巻地区家庭教育セミナーを開催

日時：令和4年10月1日(土) 13:30～15:40

会場：花巻市文化会館(大ホール)

第27回家庭教育セミナーを花巻地区で開催しました。セミナーでは講演会を実施しました。講師は、中部教育事務所主任指導主事の齋藤真先生です。

齋藤先生は、東日本大震災のおり、釜石東中学校で生徒指導主事をなさっていました。東中の生徒と隣の鶴住居小



講師の齋藤真先生

の児童、地域の人たちが高台から高台へと避難して助かったという出来事はご存知の方が多いと思われます。その避難のきっかけとなった、おばあさんからの「今まであそこの崖が崩れたことはない。ここにいたらみんな死ぬぞ。」という訴えを、当時の副校長先生に伝えた方です。副校長先生が即断して避難場所を変えたことでみんなが助かりました。

このような震災直後の話から、その後の避難生活の期間中の中学生の様子、参加者の心にとどめておいてほしいことなどを、真剣に語ってくださいました。

講演の中から、いくつか印象に残った言葉を紹介します。

- 避難を終え、ふと気がつくくと町に音がなかった。
- 学校再開後の教室では、自然に「教え合い学習」が始まっていた。騒音で話がよく聞こえず、ホワイトボードの字が細く見えにくいためだった。
- 生徒たちには「できないことよりもできることを数えよう。やればできる。」と声をかけ続けた。
- 人の数だけ悲しみは横たわっている。
- 子供たちを慈しんで、語り合って、そして忘れてない。
- 細くても息の長い支援を。身近なことだから、子供とともにできることから、一つずつでも。



ご自身も時折涙で詰まりながら語ってくださいました

参加者からは、「参加して、本当に心から良かったと思います」という声が多く聞かれました。事後アンケートから、いくつか紹介します。

● 震災時あった出来事はわかりでなく、その後の生徒の様子と取り巻く家庭の状況を聞くことができ、涙を禁じ得なかった。私たちが育てなければならぬ子供たちの姿をもう一度考えることができ

た。本日はありがとうございました。

● とても素晴らしい講演でした。親だけではなく、子どもにも聞いて欲しいと思いました。これから、何ができるかを考え、家族の時間を大切にしていきたいと思えます。

● 齋藤先生の「伝えたい」気持ちがよく伝わってきて、同時に自分が体験した震災時のことと重ねて聞いていたら、自然と涙を流していました。これから、私のできることを、子供たちのために一つ一つやり遂げていきたいと思えます。本当に素晴らしい講演会でした。

おことわり

11月5日(土)に予定していた「一関地区家庭教育セミナー」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、中止といたしました。

3年ぶりの研修会をハイブリッド型で開催

岩手県PTAリーダー研修会

7月2日(土)、田園ホール

(矢巾町文化会館)において、

岩手県PTAリーダー研修会を開催しました。実に3年ぶりの開催で、初の試みであるオンライン参加の併用によるハイブリッド型の形態です。

しかし、残念なことに当日は全国規模の通信障害が発生し、オンライン参加を予定していた人が視聴できなくなるというアクシデントに見舞われ

ました。

また、システムに不具合が生じて、何度も映像が途切れるというトラブルがあったのも主催者としての反省点です。

結果的に、現地参加は157名、オンライン参加は約50名で、県内の小中学校の約半数の参加にとどまりました。

当連合会の事業説明に続いて、行政説明と講話を柱に研修を深めました。

行政説明

運動部活動の地域移行について

岩手県教育委員会保健体育課主任指導主事の生駒大輔氏から運動部活動の地域移行について説明をしていただきました。

少子化の進展とともに、児童生徒数・学校数の減少がさらに進むことが予想されてい

ます。それとともに、教職員の働き方改革との関わりから、部活動の在り方の見直し

が迫られています。生徒本位の活動を前提としながら、改革を進めるとい

方向性を示してくださいませ。

▼休日の運動部活動から段階的に地域移行していく

▼令和5〜7年度末を目標

▼平日については、できるところから取り組む

▼生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実

▼地域のスポーツの団体等と学校の連携・協働の推進

参加者からは、「指導者の確保をどうするか」「地域の受け皿に関しては地域ごとの問題もあり難しい」「事故、ケガをした場合の責任はどう



「オンラインは当たり前です」と語る高橋先生

した。

参加者からは、「PTA目線の内容で、わかりやすかった」、「初歩的な内容で、もう少し上のステップの内容だと良かった」、「専門用語が多く、理解が難しかった」と様々な意見が寄せられました。講話の主な内容は次のとおりです。

▼オンライン研修の分類

- ・ オンデマンド型
- ・ ライブ配信型
- ・ Web会議型

▼オンライン研修の事例

▼実施する際の注意点

- ・ 出演者の承諾を得る
- ・ 個人情報取り扱い
- ・ 通信回線の安定性
- ・ アカウントの取得（使用可能になるまで時間がかかることがある）
- ▼準備する機材

最後に、オンラインは社会の中で当たり前のもので、コロナ禍特有のものではないというお話をいただきました。

講話
オンライン研修の在り方
岩手県立生涯学習推進センター社会教育主事の高橋啓氏からオンライン研修の在り方についての講話をいただきました。

「運動部活動の地域移行」について、5〜7ページに特集を組みましたのでご覧ください。PTAリーダー研修会での質問に対する回答もあります。

休日の部活動の地域移行が始まります

スポーツ庁から示された「部活動の地域移行」の方針について、岩手県教育委員会事務局保健体育課に情報提供をお願いしました。7月の岩手県PTAリーダー研修会で出された質問への回答も掲載されております。

部活動の地域移行について

岩手県教育委員会事務局保健体育課

1 部活動の地域移行について

スポーツ庁及び文化庁の有識者会議は、部活動の活動主体を学校から地域の民間団体などに移すための対応策をまとめた提言を公表し、スポーツ庁及び文化庁は提言を踏まえ、主に公立中学校の休日の部活動を対象に、地域移行を進めることとしています。7月のリーダー研修会では、「これまでの部活動を取り巻く状況」をもとに、「土日の運動部活動の地域移行」について御説明いたしました。

ここでは、「目指す姿」を確認し、実践研究から明らかになった現状についてお伝えできればと思います。

2 中学校の生徒数の減少と中学校教員の部活動に係る

勤務状況のおさらい

リーダー研修会では、岩手県の中学校の生徒数は減少傾向にあり（図1）、中学校教員の土日の部活動に費やす時間は、10年前に比べて約2倍となっているという資料をもとに、今後、スポーツや文化活動に親しむ機会の確保ができなくなる前に、持続可能で、継続的な活動機会を確保していくことの重要性についてお伝えいたしました。

子供たちの活動も、先生方の働き方も、持続可能な形で実現させていくことが大切です。「休日の部活動の段階的な地域移行」及び「合理的で効率的な部活動の推進」は、具体的な方策として打ち出されたものです。

岩手県 中学校の生徒数 (人)	
平成27年度	35,404
平成28年度	34,239
平成29年度	33,023
平成30年度	31,732
令和元年度	30,973
令和2年度	29,710
令和3年度	29,606

-5,798人

児童数 (人)			
6年生	9,645	3年生	9,048
5年生	9,456	2年生	8,964
4年生	9,205	1年生	8,666

図1 岩手県中学校の生徒数 (R3年現在)

3 実践研究から明らかになったこと

(1) 目指す姿の確認

- 少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保。このことは、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。
- スポーツは、自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じることに本質。自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出。
- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保。(スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供)

まず、提言には上記3点の「改革の方向性」が示されています。スポーツ庁は、R5年度からR7年度末までを「休日の部活動の地域移行に向けた改革集中期間」と位置づけており、それ以降は進捗状況を検証しながら、平日の移行に向けた改革を進めることとしています。

また、岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議がまとめた「岩手の中学生のスポーツ・文化活動のこれから」としてまとめた提言の中には、「望ましい活動・環境の姿」として、以下の3点が示されています。

(6・7ページ続く)

- 自主的・自発的に活動し、中学生による活動の運営等、目標に向かって充実した取り組みを実践している。
- 学校・地域・関係団体等による環境整備や体制構築が進み、中学生が希望する活動を支えている。
- 指導者と中学生のコミュニケーションが十分に図られ、生涯を通じてスポーツ・文化活動に親しむ基礎を培うことができる。

これらを基に、子供たちのニーズに合った環境を整え、支えていくことが求められています。

(2) 指導者の確保

子供たちのニーズに合った環境を整えるためにも、指導者の確保は重要な要素です。リーダー研修後に質問として多くいただいた項目でした。そこで文部科学省では、中学校における部活動指導員の配置支援事業（図2）を実施し、これを支援しています。

R3年度は県内の市町村立中学校に106名配置し、R4年度は22名増の128名の部活動指導員の配置を計画しています。



図2 中学校における部活動指導員の配置支援事業（文科省）

なお、スポーツ庁の令和3年度地域運動部活動推進事業の実践研究における指導者の属性については、地域指導者が最も多く、次いで教員、社会人や大学生が多いというデータが示されています。地域移行前から、各学校の部活動の指導に関わっていた方を継続して確保する方法が多いようです。

政令市では、属性の偏りが少なく、多様な属性によって指導が担われていますが、ほとんどの自治体では、兼職兼業の教員が指導者として任用されているのが現状です。

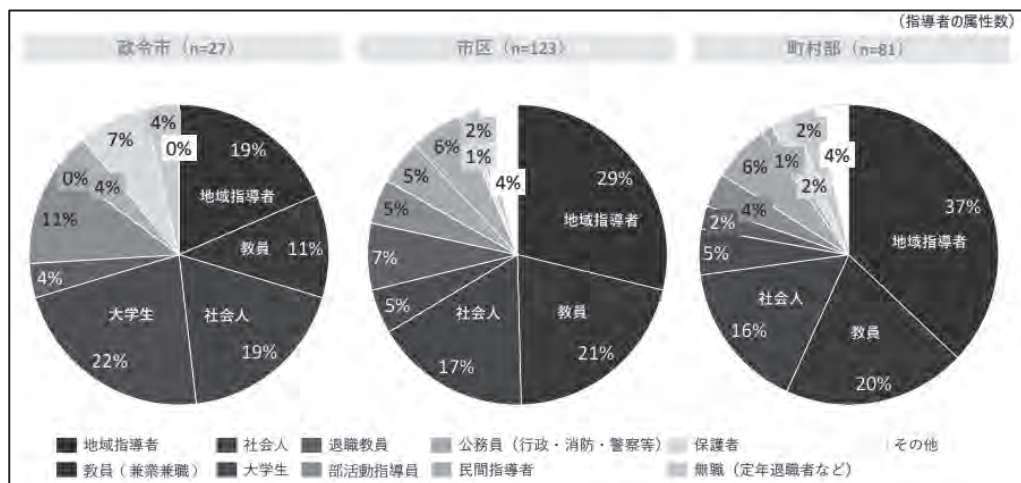


図3 指導者の属性（運動部活動の地域移行に関する検討会議 第3回 参考資料1）

また、新たな指導者の確保のために、「地域スポーツクラブによる紹介」、「競技団体による紹介」等、関係団体と連携を進める方法をとっている例が多く見られます。

中には、個人的な人脈を活用して確保する例や、「求人募集・ハローワークへの掲載」、「体育（スポーツ）協会からの紹介」も見られます。

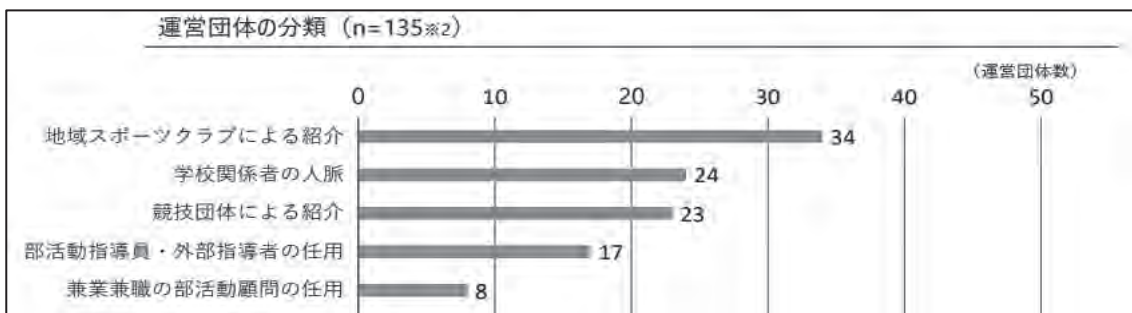


図4 指導者の確保について(運動部活動の地域移行に関する検討会議 第3回 参考資料1)

(3) 地域スポーツに参加するための費用

こちらも質問として頂戴していた内容です。地域スポーツに参加した際に、費用はどれくらいかかるのかについて試算額が示されています。

従来学校で行われていた部活動でも、用具の購入等で費用がかかっていたわけですが、それに追加し、図5のような費用がかかることとなります。

地域クラブへの入会金、参加会費や保険料等がそれにあたり、その試算額は、生徒一人当たり年間で、17,581円(クラブの運営費用を除く)になることが示されています。

費目	平均金額(円)
参加会費	9,112
保険料	4,679
入会金	653
その他	3,137
年間追加負担額 (生徒一人当たり・年)	17,581

図5 地域運動部活動推進事業に関する情報照会 費用
(運動部活動の地域移行に関する検討会議第4回参考資料3)

4 これからの環境づくりのために

スポーツ庁では、来年度も地域運動部活動推進事業の実践研究を実施する予定です。私たちは、「学校に部活動があって当たり前」、「スポーツ・文化活動の指導は学校が担うもの」の時代に生きてきました。しかし、今は大きな転換期を迎えています。これまでの部活動が抱えてきた様々な課題を解消し、部活動改革を進めるのは、今が絶好の機会であるとスポーツ庁は述べています。将来にわたり、子供たちの多様なスポーツ・文化活動に親しむ機会を確保するために、私たち大人が力を合わせ、知恵を絞り、前向きに行動していくことが重要であると考えます。

11月1日(火)に、スポーツ庁HPにて、「運動部活動の地域移行に関する実践研究事例集」が公表されました。地域移行における運営形態のイメージなど、実践研究の成果が盛り込まれておりますので、そちらも併せてご覧ください。



https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00116.html

◆岩手県PTAリーダー研修会における質問への回答(抜粋)◆

Q1: 事故、ケガをした場合の責任についてはどのように考えているのか。

A1: 地域でのスポーツ活動は、学校管理下の活動ではありません。スポーツ庁はスポーツ安全協会に働きかけ、「地域でスポーツを行う生徒やその保護者が安心できるよう、災害共済給付制度と同程度の補償が受けられるための、速やかな実施に向けて取組を進めるよう要請し、同協会は掛け金の据え置きと同程度の補償となるよう補償内容の充実を決定しています。

Q2: 地域移行になった場合、部の所属はどうなるのですか？

A2: 地域の活動については任意です。希望により様々な団体に所属することになります。ただし、大会参加等については、競技団体への登録規定や各大会の規定により、異なることが考えられます。

Q3: 地域移行した部へ参加する場合に発生する料金等の補助はあるのですか？

A3: スポーツ庁では、経済的に困窮する世帯へ、参加会費・保険料・交通費等の支援を想定しており、詳しい方法等については現在検討中です。

家庭で話そう！

我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ

岩手県PTA三行詩コンクール 入選作品の紹介

小学生の部

(393点)

★最優秀賞

盛岡市立向中野小学校

1年 今野 幹太

ぼくのおしごとおふろそうじ
いつもびかびか
みんなのえがおも
びっかびか

★優秀賞

奥州市立玉里小学校

2年 佐藤 葵空

「おふろにいつしよに
はいるうか？」
「ほくひとりて
おふろにはいる！」
さびしそうなおとうさん。
あしたはいつしよにはいつて
あげようかな…と、
こっそりおもった。

★優秀賞

盛岡市立桜城小学校

5年 鶴口 朔

コロナ禍で、ずっと会えない
おばあちゃん
スマホこしでは会えるけど
一緒にごはんを食べたいな

★優良賞

盛岡市立山岸小学校

1年 加藤 結乃

おとうとおさんぽ。
ちいさいてがわたしのてを
ぎゅつとにぎる。
あたたかいて。
わたしのきもちも
あたたかくなる。

★優良賞

奥州市立玉里小学校

4年 谷藤 蒼生

たまに開かれる
わが家のお絵かき大会
お題はイヌ ネコ
いろいろあるけれど
いつも同じ顔の父の絵に
家族みんなで大はくしよう

★奨励賞

盛岡市立厨川小学校

6年 藤澤 蒼衣

盛岡市立津志田小学校

5年 中川 旬

一関市立室根小学校

6年 阿部 勇翔

久慈市立久慈小学校

5年 澤山 汐里

久慈市立久慈小学校

5年 永瀬 花凜

★優秀賞【全国佳作】

北上市立北上中学校

3年 阿部 心逢

7・10自宅発の
父の車の中は
私の心の相談室

★優秀賞

一関市立一関東中学校

3年 菅原 姫和

いつもけんかばかりの
憎らしい弟だけど
両親に怒られていると
なぜかかばってしまっ
お姉ちゃんだな 私

★優良賞

盛岡市立城西中学校

1年 工藤 擧翔

雨の中あわてて帰ってきた母が
すてにとりこまれた洗濯物に
とても喜び僕をほめた
こんなことでよかったんだ
こんなことがうれしいなんて
それから4年
とりこみ続けている今も
雨がふっていなくても



各部に分かれてじっくり読みこみました



★優良賞

北上市立北上中学校
3年 小田島侑美

「ただいま」と私。
「おかえり、何かあったの」と母。
ただいまの一言で全てが分かるってすごい。

★奨励賞

盛岡市立土淵中学校
3年 田中 理夏
盛岡市立渋民中学校
1年 澤又 柚季
北上市立北上中学校
3年 菊池 冬湖

一般の部

(80点)

★最優秀賞

花巻市立八重畑小PTA
晴山 春佳

いつの間に 出来るようになったのか
知らない姿が増えていく
嬉しいはずの 我が子の成長
母は ちよっぴり
淋しいです

★優秀賞

花巻市立若葉小PTA
菊池 彩子

「ママの笑顔が大事だから」
8才で言うか
その言葉

★優秀賞【全国佳作】

奥州市立東水沢中PTA
柴田 敬恵

体調を崩した私に娘の声
「もう！ だから気をつけてって
言っただしょ！」
心配すると怒るところも
私に似たなあ

★優良賞

一関市立室根小PTA
小山 彩乃

「パパいってらっしゃい、
お仕事がんばってね」
娘たちの言う定型文。
言葉より、そのキラキラした
笑顔で
パパは毎日頑張れるんだよ。

★優良賞【文部科学大臣賞】

一関市立室根小PTA
小山久美子

つなぐこともなくなった
その小さかった手は
今では頼もしく感じるよ
困った人がいたら
その手で ちゃんと
さしのべるんだよ。

★奨励賞

盛岡市立北陵中PTA
加藤 裕子
花巻市立大迫小PTA
藤根みゆき
一関市立室根小PTA
河合 純子
一関市立室根小PTA
昆野 夏紀
野田村立野田中PTA
泉澤 知絵

審査委員

岩手県教育委員会生涯学習
文化財課社会教育主事
阿部 貴弘氏
岩手県小学校長会副会長
後藤 敏信氏
岩手県中学校長会常任理事
泉澤 毅氏
学識経験者・元中学校長
岡田 安生氏

講評

審査委員長 阿部 貴弘氏
【優れていたところ】

三行詩という短い表現の中に、よくある日常や、何気ない家族とのやり取りなどの情景が目につかぶような作品が多くありました。離れて暮らす祖父母への思いや父母への感謝、兄弟への思いやり、子どもの成長に喜びと寂しさを感ずる親の想いなどが素直に表現されていました。

選ばれた作品の多くが、何を読み手に伝えたいのかがはっきりしていましたし、詩の内容が「絵」として描けそうなものがありました。また、作品を声に出して読んでみると、文字として見た時との違いや変化があり、違った良さや気付き場面がありました。多くの素晴らしい作品を審査委員一同、じっくりと味わうことができました。

【今後に期待すること】

「三行詩」という短い表現の中で、いかに読み手に伝わるような構成にしていけるかが重要です。言葉を大切に選び、素直に表現すると、より読み手に伝わると思います。本をたくさん読み、感情を言葉にするための表現方法を知ることにより、一層魅力的な三行詩につながると思います。

全国入賞 おめでとう！

4名の方が全国コンクールで入賞しました。

- ◆文部科学大臣賞
一般の部：室根小学校 PTA 小山久美子さん
- ◆日本 PTA 全国協議会会長賞
中学生の部：北上中学校 3年 森川心稀さん
- ◆佳作
中学生の部：北上中学校 3年 阿部心達さん
一般の部：東水沢中学校 PTA 柴田敬恵さん



子どもの権利といじめに関する出張授業

弁護士法人岩手銀河法律事務所 弁護士

須山 通治

1 戦争と子どもの権利保障の進展

学制発布による学校教育制度開始から150年が経ちました。その間、二度の世界大戦がありました。世界は、戦争が子どもに大きな犠牲を強いたと反省し、子どもが権利の主体であるとしたうえで、最善のものを保障することに、平和な未来を築く礎になることを期待しました。

第一次世界大戦後に発足した国際連盟は、1924年に「子どもの権利に関するジュネーブ宣言」を採択し、子どもは心身両面における正常な発達に必要な諸手段や食物、医療など最善のものが与えられるべきだとされました。その後、再び起きた第二次世界大戦を経て新たに組織された国際連合は、1959年に「子どもの権利宣言」を採択します。子どもは幸福な子ども時代を送り、この宣言に掲げるすべての権利及び自由

を享有すると宣言しました。

2 子どもの権利条約と子ども基本法

さらに、1989年、法的効力を有する「子どもの権利条約」が採択され、1994年に日本も批准します。

条約は、子どもに対する①差別禁止、②最善の利益の確保、③生命・生存・発達への権利保障、④意見の尊重を一般原則と定め、成長・自立にあたり必要な権利を保障すると規定しました。

そこには、休息や遊びの権利も成長発達に不可欠なものとして規定されています。しかし、虐待、いじめ、子どもの自殺者数が増加し、精神的幸福度の低さが重大な問題となっています。

さて、同条約の注目すべき点は、各国における権利保障の達成状況を国連子どもの権利委員会が5年ごとに審査するとされていることです。

日本政府報告書に対する2019年の審査において、同委員会は54の項目に及ぶ総括所見を出しています。

その中では、子どもの意見表明権が尊重されていないことに深刻な懸念が示され、また、休息及び余暇についての権利並びに遊びの活動に関する権利の保障を強化するよう勧告されています。

その背景として、社会の競争的性質、特に学校環境が競争的なシステムとなっていることにより子どもが受けるストレスが多いことが指摘されています。

こうした国際社会の声もあり、「子ども基本法」が制定されました（来年4月施行）。同法は、条約の精神にのっとり、子どもの権利擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができるとともに、子どもの意見表明の機会を確保すると規定しています。

しかし、個々の子どもの権利を具体的に保障するとまではされず、あくまでも国の子ども施策の理念として掲げただけの点は残念ですが、ひとまず一歩前進したことは評価したいと思います。

3 いじめに関する出張授業

最後に、弁護士として実施しているいじめに関する授業の取組みについて、簡単に紹介しておきます。

まず①どのような行為がいじめに当たるか、②いじめとはどのようなことか、実際の自死に至った事件の紹介、③被害者側の心情とは、④加害者の気持ち等を議論しながら進めます。いじめは対象者が苦痛を感じているものとされ、心身の苦痛を想像し、理解することです。

そして、ドラえもんが登場人物を借りて、のび太がジャイアンからいじめを受けている、さてどうすればよいか、傍観者を含め各自が果たする役割を考えてもらいます。

最後に、憲法13条は誰もが個人として尊重され、生命、自由、幸福追求の権利が保障されると説明します。皆、自分の思い描く幸福を追い求め

て自由に生きることが保障されており、いじめで悩むことなく、楽しく通える学校にしてほしいと締め括ります。

この授業を契機に、自分自身はもちろん、すべての人が幸福を追い求め自由のびのび生きる権利を有しており、それを社会全体で守っていくことが大切であるとの意識を持ち続けてくれればよいと願っています。



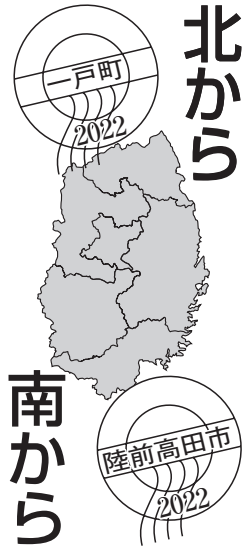
飯岡中学校での出張授業

プロフィール



須山 通治
(すやま みちはる)
岩手弁護士会所属。日弁連子どもの権利委員会委員。岩手子どもの権利委員会委員長。

特色あるPTA



活動を工夫して

一戸町立一戸南小学校PTA

本校は、昭和43年に開校し、今年度創立55周年を迎えました。本校の学区には、令和3年7月に世界遺産登録に

なった御所野縄文遺跡があり、1・2年生は生活科で、3年生以上は主に総合的な学習の時間に御所野をテーマに



「できる人が、できる時に」を合い言葉に環境整備作業をしました

探究に出かける等、学習環境に恵まれています。PTA会員数67名で、子どもの健全育成のために、学年PTA専門部、地区PTA、親父の会が組織され、学校・家庭・地域が協力して活動を行っています。この2年は新型コロナウイルスの感

染拡大防止のため中止にした活動もありましたが、今年度は感染状況をみながら、できる範囲で活動に取り組んでいます。

8月に実施した校庭環境整備は、学校のボランティア委員会主催「この指とまれ運動（校庭草取り）」の4日間を環境整備週間とし、「できる人が、できる時に」を合い言葉に、環境整備部、親父の会等

子どもたちのために

陸前高田市立竹駒小学校PTA

本校は、明治6年に創立し、今年度で149年目を迎えます。現在児童数39名。PTA会員数は30名。氷上山麓の美しい自然と、史跡「玉金山」をかかえた環境の中で、地域とPTAが長年に渡って協力・協働しながら子どもたちのために、積極的にPTA活動に取り組んでいます。

今年度も、新型コロナウイルス感染症予防の対策を講じながら、PTAの活動を行っています。運動会の早朝会場準備や子どもたちの係活動の補助、夏・冬休み中の資源回収、心肺蘇生法やメディアコントロールを中心とした家庭教育

関係者が一緒になって、PTA環境整備作業に取り組みました。

次年度からのコミュニケーションスクールの実施に向けて、今年度は学校運営協議会準備委員会を組織し、教育振興運動の活動、PTA活動等の活動と一体的に進め、より効果的な連携・協働となる検討を進めています。

(事務局 塚本 岳也)

学級の開催、プール開放の監視当番等、様々な活動に全PTAが参加し、活動への高い意欲が感じられます。

また、春と秋に行われる「親子環境整備作業」では、児童数の減少に伴い、PTA会員数も年々減少している実態ではありますが、子どもたちのために、大人の力を集結し、一緒に教育環境を整える姿は、子どもたちの目と心に残る姿となっています。翌日ピカピカに光っている校舎内の窓を見上げながら、感謝の心も入り、より一層学習に力が入る子どもたちです。



親子で環境整備作業をしました

また、毎月の「子どもを守る街頭指導」は、平成20年から始まり、今年で14年目を迎えます。子どもたちの安全な登校を見守り、挨拶を交わしながら、保護者と地域が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいます。

(事務局 千田 祐子)

おめでとーございませう

本年度の全国・東北での受賞者の皆さんを紹介しませう(敬称略)

◆優良 PTA 文部科学大臣表彰 一戸町立奥中山小学校 PTA、雫石町立七ツ森小学校 PTA

◆日本 PTA 全国協議会会長表彰

団体の部 紫波町立日詰小学校 PTA
大船渡市立越喜来小学校 PTA

個人の部 高橋英明、村上可織、下川原章勝、京極和洋

◆「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩コンクール

一般の部 文部科学大臣賞
一関市立室根小学校 PTA 小山久美子

中学生の部 日本 PTA 全国協議会会長賞
北上市立北上中学校 3年 森川心稀

中学生の部 佳作
北上市立北上中学校 3年 阿部心逢

一般の部 佳作
奥州市立東水沢中学校 PTA 柴田敬恵

◆東北ブロック PTA 協議会会長表彰

団体の部 福岡中 PTA (二戸)、岩手大学教育学部附属小父母と教師の会 (盛岡)
西根第一中 PTA (岩手)、二子小 PTA (和賀)、室根小 PTA (一関)
白山小 PTA (上閉伊)

個人の部 高橋英明 (元副会長)、壽松木亨 (元副会長)、下川原章勝 (前副会長)
浦田大輔 (前副会長)、菊地栄志 (前副会長)、京極和洋 (前副会長)



東北大会で表彰される高橋英明さん

日本 PTA 全国協議会の ホームページがリニューアル

「PTAって何?」「PTAは必要なの?」といった疑問から、「どんな活動をしているのかもっと詳しく知りたい」といった要望にまでお応えできるよう、日Pのホームページがリニューアルされました。動画ギャラリーも用意され、親しみやすく分かりやすい解説を見ることができます。→ <https://www.nippon-pta.or.jp/> 主なコンテンツを紹介しませう。

☆PTAって何だろう? 「はじめましてPTA」

PTAの意義、活動内容・目的などを会員の疑問に答える形で説明しませう。

☆日本 PTA 全国協議会 (日P) の取り組み

いじめ対策、インターネット対策、政府や関係機関などへの働きかけ、子育てを支援する活動など、日Pが取り組んでいる事業についてお知らせしませう。

☆もっと知りたい PTA

動画ギャラリー (コミュニティ・スクールと PTA、令和の日本型学校教育) や日本 PTA の歴史 (日本 PTA のあゆみ、写真で見る PTA 活動) がアップされています。



編集後記

全国大会山形大会や岩手県 PTA リーダー研修会など、現地参集型の研修の機会が戻ってきました。対面による研修のよさを再認識したところだす ▶ 一戸南小 PTA、竹駒小 PTA、弁護士須山通治様、県教委の生駒大輔様には玉稿をお寄せいただき、厚く御礼申し上げます。多くのヒントをいただきました。